

はじめに **ポジショニング委員会の立ち上げ**

法人研究発表会や、延寿でのシーティング委員会の取り組みを学び、必要性を実感。

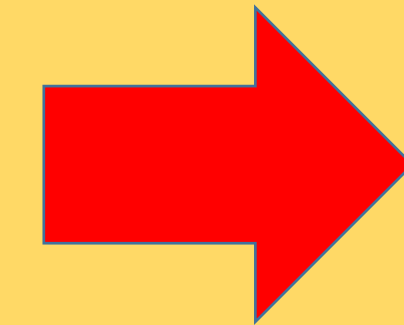
⇒延寿での施設内研修(委員会発表)参加を経て、梅寿荘でも委員会を立ち上げた。

**POINT !**

委員会で姿勢ケアの必要性を学び、委員の認識を共有する。

**目的**

ご利用者の生活場面に適した姿勢を整えるケアによって、呼吸の安寧、安全な摂食・嚥下、関節拘縮の予防改善、褥瘡予防に寄与し、ご利用者の生活の質(QOL)維持向上を目的とする。



ポジショニング前 ポジショニング後

**取り組んだ内容**

- I. テキストの購入と学び (参考書:写真でわかる拘縮ケア (著者:田中義行氏。))
- II. 外部研修への参加 (介護職と医療職で参加。講師:大淵哲也氏)
- III. 外部研修の委員会内フィードバック (不良姿勢をポジショニングして、楽になる過程を体験。)
- IV. 施設内研修の実施 (不参加の職員には全員に資料を配布した。)
- V. 参加者対象アンケートの回収・分析
- VI. 対象者のカンファレンスの実施 (不良姿勢により、生活の質が低下しているご利用者を事例検討。)



**施設内研修の実施 (受講者32名)**

姿勢ケアを職員全員が理解するために、昨年の10月度に施設内研修を実施した。

**目的**

- 1、なぜ拘縮が起きるのかを理解する
- 2、不良姿勢がもたらす悪影響を知る
- 3、基本の介助・接し方を確認する
- 4、不良姿勢を体験し、その辛さを想像する
- 5、仰臥位に対するポジショニングを学ぶ



**内容**

講義…姿勢ケアの基礎知識を学ぶ。

(拘縮の原因である抗重力筋の作用、筋性拘縮と神経性拘縮、不良姿勢の弊害、基本の言葉かけ、触れ方等。)

実技演習…ご利用者体験(不良姿勢体験)と、仰臥位のポジショニングをロールプレイ。

**アンケートの実施 (アンケート回収、32人中30名)**

今回の研修(姿勢ケア)について、アンケートを実施しました。

目的:姿勢ケアへの関心、研修受講前後の意識変化、今後学びたいことを調査、分析する。

～アンケート集計結果から分かったこと～

施設内研修に参加した職員は、姿勢ケアに興味を持てた。  
 施設内研修の前と後では、意識の変化がみられている。  
 施設内研修を実施することには意義があった。

**課題と行動目標**

・姿勢ケアに対する知識を深め、自信をもって実践できるようにしたい。

⇒学びと実践の継続。

・職員間の姿勢ケアに対する意欲に乖離があり、十分に浸透していない。

⇒ケアの根拠を丁寧に伝え、多職種連携での実践を通し、ご利用者の変化に気づいていく。成功体験の共有。

・現場実践の展開。スタッフみんなで実践する工夫を。

⇒ケアの根拠と実際の写真を載せたマニュアルの掲示。(見える化)

・姿勢ケアのモニタリング。

⇒記録に残す事で、ご利用者の変化に気づき、多職種と情報を共有し、ケアの向上に繋げる。

**今後の展望**

- ・委員の学びを深め、定期的施設内研修を継続開催する。(出席できなかった職員へのアフターフォローも重要。)
- ・スタッフが姿勢ケアの実践を負担に思わないよう、実践の意味を伝えていく。
- ・多職種(医務、栄養課など)との連携を深め、カンファレンスでのケアプランへの反映を行っていく。
- ・姿勢ケアを機能訓練加算の評価へと落とし込む。(ケアの根拠と成果を見える化し、正当な報酬を得る。)
- ・先輩として導入実績のある、延寿シーティング委員会と連携をとり、今後の研修、勉強会を企画していきたい。